こんなところに仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

逆謗（ぎゃくほう）

身近な仏教用語ではないのですが、大切なのでご紹介です。

「逆謗」とは、二つの言葉の略称です。ひとつは「五逆」、ひとつは「誹謗正法」のことです。

五逆とは、殺母…母を殺す　殺父…父を殺す
殺阿羅漢…聖者を殺す　出仏身血…仏を傷つける
破和合僧…教団を破壊する
誹謗正法とは仏の教えを謗ること

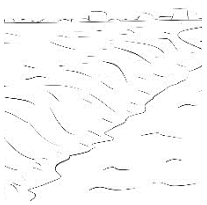
これらの罪を犯した者は、無間地獄に落ちるとされていました。

阿弥陀如来も大無量寿経には、五逆や誹謗正法の者はすくいから除くと説かれています。しかし、観無量寿経において、逆謗のものもすくうと説かれており、古来議論がなされてきました。唐の時代の僧善導大師の登場で、阿弥陀如来のすくいの目当ては、煩悩盛んな凡夫であることを明らかにされました。ここから浄土教が盛り上がり、日本へと伝わり親鸞聖人へとつながります。親鸞聖人は、「世雄の悲、逆謗闡提を恵まんと欲す」と、阿弥陀仏の恵みの中ですよと説かれました。

当たり前 ↔ 有難し 若在恥

逆流（ぎゃくる）

夏の頃、中国の銭塘江がニュースになることがあります。大潮の時に、河川を海水が逆流して川上に流れていく海嘯が起きた時です。この時の「逆流」は「ぎゃくりゅう」と読みます。普段とは反対にものが流れていくことです。



仏教でも「逆流」がありますが、「ぎゃくる」と読みます。仏教はさとりを目指します。さとりとは解脱のことです。解脱とは抜け出すということです。何から抜け出すかと言えば、迷いの連鎖から抜け出すのです。

人間は迷いの存在です。無ければ欲しいと悩み、有れば失うことに悩み、便利になれば人間の了見は狭くなります。先日も、ある携帯会社の通信が途絶えたあくる日、お店の受付で怒鳴り込んでいる男性がいました。いずれも煩悩によるものです。何事も当たり前ではないのです。本来は、有る事が難しいのです。そこをいただくと「有難う」と御礼を言えるようになります。

迷いを繰り返すことが人間の当然の流れなのですが、そこから抜け出そうと仏道を歩むことを「逆流」といいます。